

祖国の負傷者救え

岡山大留学中のトルコ人医師

AMDA参加、きょう出発

一万人以上の死者を出したトルコ大地震での医療活

動のため、岡山大医学部に留学中のトルコ人医師メーメット・グンデューズさん(三三)岡山山下伊福西町IIが国際医療ボランティアAMDA(本部・同市樽津)の救援チームの一員として二十四日、岡山を出発する。



トルコ大地震の被害状況を伝える新聞をそばに、地図を見ながら祖国の様子を案じるグンデューズさん(左)

イスタンブール経由で被災地に入り、負傷者の診療や日本人医師との通訳に当たる。(5面に関連記事)

七年十月に来岡。同大医学部耳鼻咽喉(いんこう)科でがん遺伝子の研究を続ける一方、東京に本部を置

く友好団体「トルコ・中央アジア文化センター」の岡山支部長も務めている。

震源地の同国北西部・工業都市イスマイトの近郊に住む弟は無事だったが、入居しているビルの一、二階部分が倒壊する被害を受けたという。

今回AMDAが派遣する救援チームは、グンデューズさんを含め医師、看護婦ら十四人。すでに第一陣として日本人医師ら四人が、現地で重症患者の診察に当たっている。

グンデューズさんは一テレビなどで祖国の惨状を見ると、とても悲しい。施設も医薬品も十分ではないと思うが、全力で治療に当たり一人でも多くの同胞を助きたい」と話している。

トルコ・中央アジア文化センター岡山支部は救援金を受け付けている。振り込みは、中国銀行津島支店(普通口座13717904)。問い合わせは同支部の主任英夫さん(086-235-0788)。